

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

Q7 県では、「医療ネットしずおか」により、現在診療可能な医療機関や休日(土日祝日、年末年始等)・夜間当番医等の情報をインターネット等で案内していますが、あなたは御存知ですか。

【1】	1 知っている	(89人,21.4%)
【2】	2 知らない	(326人,78.6%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ1】 Q7で「1 知っている」とお答えになった方に伺います。あなたは、これまでに「医療ネットしずおか」の案内を利用されたことがありますか。

【1】	1 利用したことがある	(36人,40.9%)
【2】	2 利用したことがない	(52人,59.1%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

<静岡子ども電話相談について>

Q8 お子様(中学生まで)が、夜、急に具合が悪くなったとき、どう対応したらよいか電話で相談できる「静岡子ども救急電話相談(#8000)」がありますが、あなたは御存知ですか。

【1】	1 知っている	(73人,17.6%)
【2】	2 知らない	(342人,82.4%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ1】 Q8で「1 知っている」とお答えになった方に伺います。あなたは、「静岡子ども救急電話相談」をどこで(どのように)お知りになりましたか。(いくつでも可)

【1】	1 県のホームページ	(12人,16.4%)
【2】	2 県民だより	(28人,38.4%)
【3】	3 市町のホームページ	(5人,6.8%)
【4】	4 市町の広報誌	(19人,26%)
【5】	5 タウンページ(電話帳)等その他情報誌	(2人,2.7%)
【6】	6 知人や友人から聞いた	(8人,11%)
【7】	7 病院・診療所のポスター	(22人,30.1%)
【8】	8 その他(具体的に)	(12人,16.4%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ2】 Q8で「1 知っている」とお答えになった方に伺います。あなたは、実際に「静岡子ども救急電話相談」を利用したことがありますか。

【1】	1 利用したことがある	(11人,15.1%)
【2】	2 利用したことがない	(61人,83.6%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ3】 SQ2で「1 利用したことがある」とお答えになった方に伺います。「静岡子ども救急電話相談」について、今後も利用したいですか。

【1】	1 今後もぜひ利用したい	(8)
-----	--------------	-----

		人,72.7%)
【2】	2 今後も利用するかもしれない	(2人,18.2%)
【3】	3 もう利用したくない	(1人,9.1%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【SQ4】 SQ3で、「3 もう利用したくない」とお答えになった方に伺います。もう利用したくないと思った理由は何ですか。(いくつでも可)

【1】	1 相談員の対応が悪かった	(0人,0%)
【2】	2 電話がなかなかつながらなかった	(0人,0%)
【3】	3 その他(具体的に)	(1人,100%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

<自由意見>

Q9 Q1～Q9以外に、県の救急医療の体制に関してご意見等がありましたらご記入ください。(500字以内)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

【地域福祉に関するアンケート】(Q10～Q14)

Q10 あなたは、現在、地域の人との程度の付き合いをしていますか。(回答数は1つ)  
※ この質問における「地域」とは、具体的には、単位自治会・町内会の組や班など、日常生活における小さな圏域のことをいいます。

【1】	1 家族同様の親密な付き合い	(9人,2.2%)
【2】	2 困ったときに助け合う相互扶助的な付き合い	(89人,21.4%)
【3】	3 義理を欠かさない程度の形式的な付き合い	(188人,45.3%)
【4】	4 あいさつをする程度の付き合い(なるべくかわからない)	(120人,28.9%)
【5】	5 まったく付き合いがない	(9人,2.2%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

Q11 あなたは、地域の人との程度の付き合いをするのが望ましいと思いますか。(回答数は1つ)  
※ この質問における「地域」とは、具体的には、単位自治会・町内会の組や班など、日常生活における小さな圏域のことをいいます。

【1】	1 家族同様の親密な付き合い	(5人,1.2%)
【2】	2 困ったときに助け合う相互扶助的な付き合い	(274人,66%)
【3】	3 義理を欠かさない程度の形式的な付き合い	(103人,24.8%)
【4】	4 あいさつをする程度の付き合い(なるべくかわからない)	(31人,7.5%)
【5】	5 まったく付き合いをしない	(2人,0.5%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

Q12 あなたがお住まいの地域では、住民相互の支えあい活動(地域福祉活動)が盛んですか。(回答数は1つ)

※「住民相互の支えあい活動」(地域福祉活動)とは、例えば、日常的な声かけや見守り活動、高齢者サロンや子育てサロン活動、高齢者世帯・障害者世帯への友愛訪問及び各種慰問活動、高齢者の地域生活を支える活動(買い物支援、家事・ゴミ出し支援など生活の支援)、ふれあい給食サービス事業、子どもたちと高齢者との交流活動などのことをいいます。

--	--	--

【1】	1 盛んである	(3人,0.7%)
【2】	2 どちらかといえば盛んである	(105人,25.3%)
【3】	3 どちらかといえば盛んでない	(137人,33%)
【4】	4 盛んではない	(98人,23.6%)
【5】	5 わからない	(72人,17.3%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

Q13 あなたは、住み慣れた地域でだれもが安心して、自立した生活を送るためには、住民相互の  
支えあい活動(地域福祉活動)が必要だと思いますか。(回答数は1つ)

【1】	1 必要だと思う	(166人,40%)
【2】	2 どちらかといえば必要だと思う	(204人,49.2%)
【3】	3 どちらかといえば不要だと思う	(18人,4.3%)
【4】	4 不要だと思う	(8人,1.9%)
【5】	5 わからない	(19人,4.6%)

【1】【2】【3】【4】【5】【6】【7】【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【17】【18】【19】【20】【21】【22】  
【23】【24】

Q14 住民相互の支えあい活動(地域福祉活動)を活発にするためには、あなたはどのようなことが  
必要になると思いますか。(回答数は3つまで)

【1】	1 イベントの開催などの広報啓発活動	(126人,30.4%)
【2】	2 ボランティア体験などのきっかけづくり	(154人,37.1%)
【3】	3 活動の中心となるリーダーの養成	(117人,28.2%)
【4】	4 地域の関係団体の相互協力	(143人,34.5%)
【5】	5 活動の主体となる新たな組織づくり	(94人,22.7%)
【6】	6 子どものころからの福祉教育の推進	(165人,39.8%)
【7】	7 休暇制度など活動に参加しやすい環境整備	(77人,18.6%)
【8】	8 必要な機材や金銭の援助	(50人,12%)
【9】	9 わからない	(24人,5.8%)
【10】	10 その他(具体的に)	(38人,9.2%)

[一覧に戻る](#)

## お問合せ先

静岡県企画広報部知事戦略局広報課  
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号  
電話番号:054-221-3232 FAX:054-254-4032 E-mail:[koe@pref.shizuoka.lg.jp](mailto:koe@pref.shizuoka.lg.jp)

著作権・リンクについて 個人情報保護について [ユニバーサルデザインに配慮したページづくり](#)

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号【県庁総合案内】電話番号:054-221-2455  
ホームページ管理者へのお問合せは[webmaster@pref.shizuoka.jp](mailto:webmaster@pref.shizuoka.jp)までどうぞ

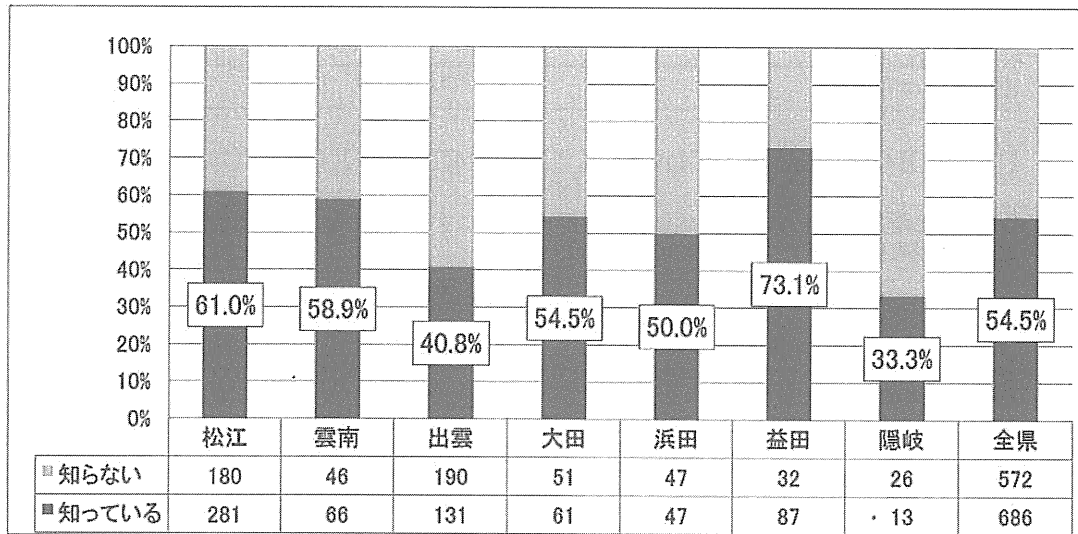
Copyright Shizuoka Prefecture. All Rights Reserved

## #8000アンケート結果

### 【実施概要】

- #8000の認知度・満足度を調査するため、平成21年7月～9月の任意の1ヶ月間における乳幼児健診受診時にアンケートを実施(市町村に依頼)
- 配布部数 1,514部 回収部数 1,262部(回収率 83.4%)

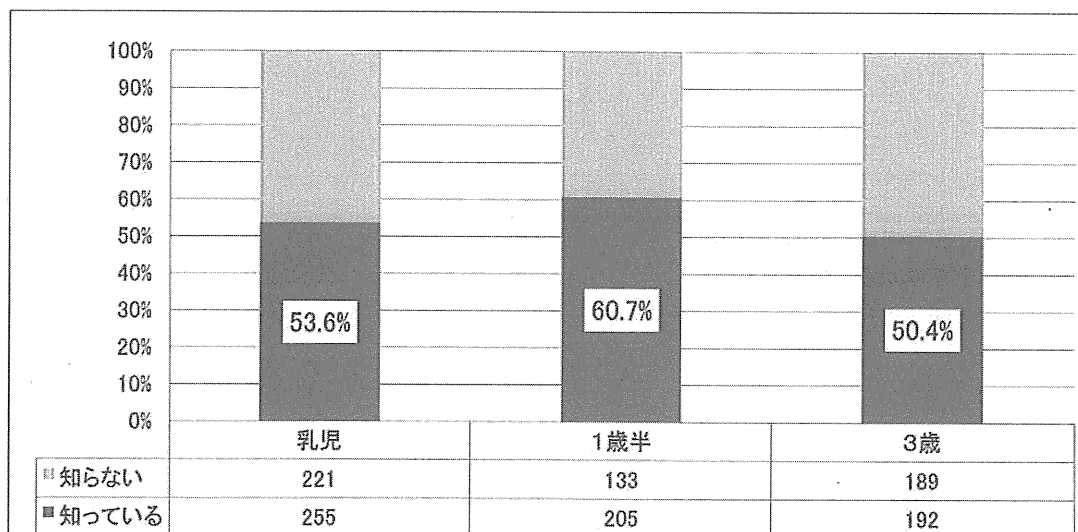
### 問1 小児救急電話相談(#8000)をご存知でしたか。



※無記入アンケート(4枚)は集計対象から外した。

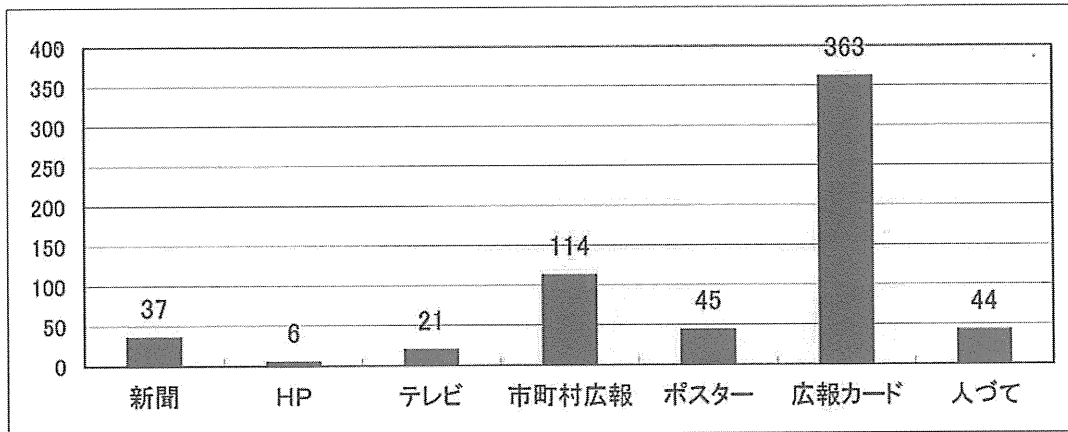
○全体では、54.5%が#8000を知っている。

○益田、松江での認知度は6割を超えるが、隠岐では認知度が4割を下回る。出雲も低い。



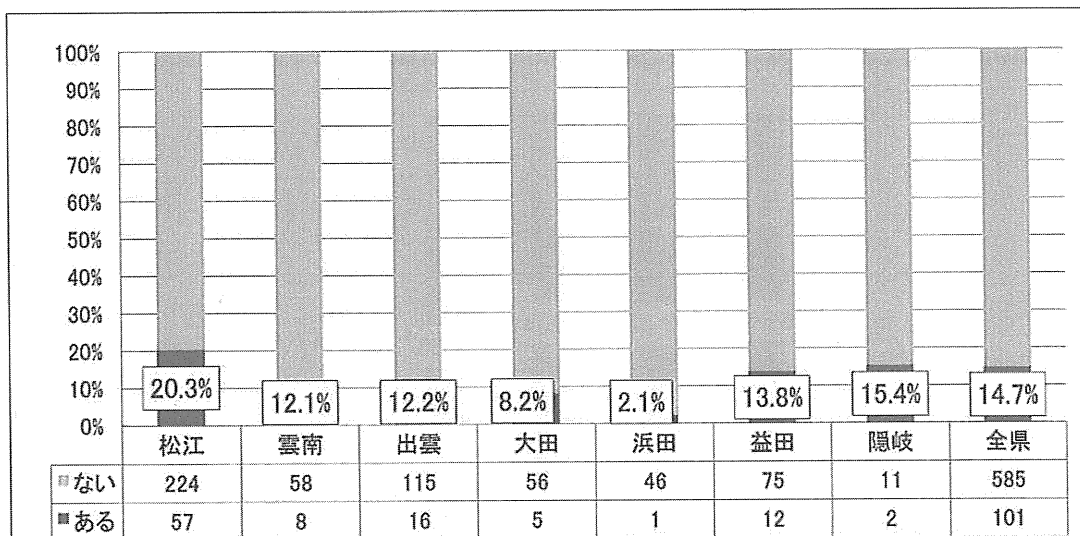
○1歳半の子を持つ保護者の認知度が高い。

問2 #8000を何でお知りになりましたか。(複数回答)



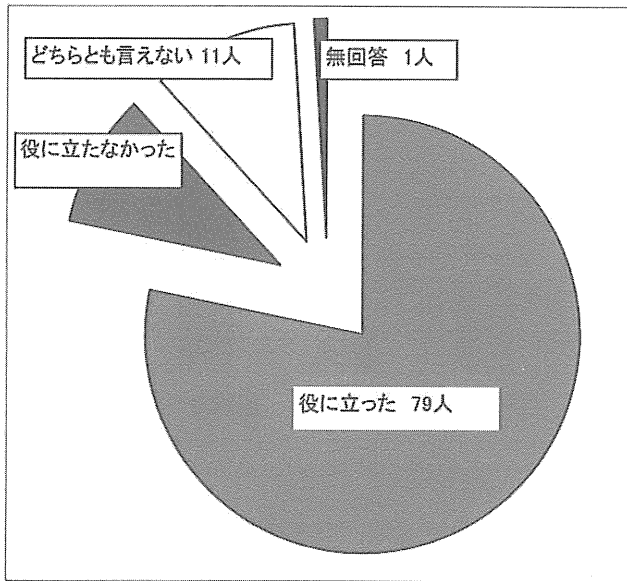
- 広報カードや市町村広報紙による広報活動が有効。
- その他意見として、保育所等での情報提供や予防接種時、保健師から聞いた、といった回答があった。

問3 #8000を利用されたことはありますか。(＃8000を知っていた方)



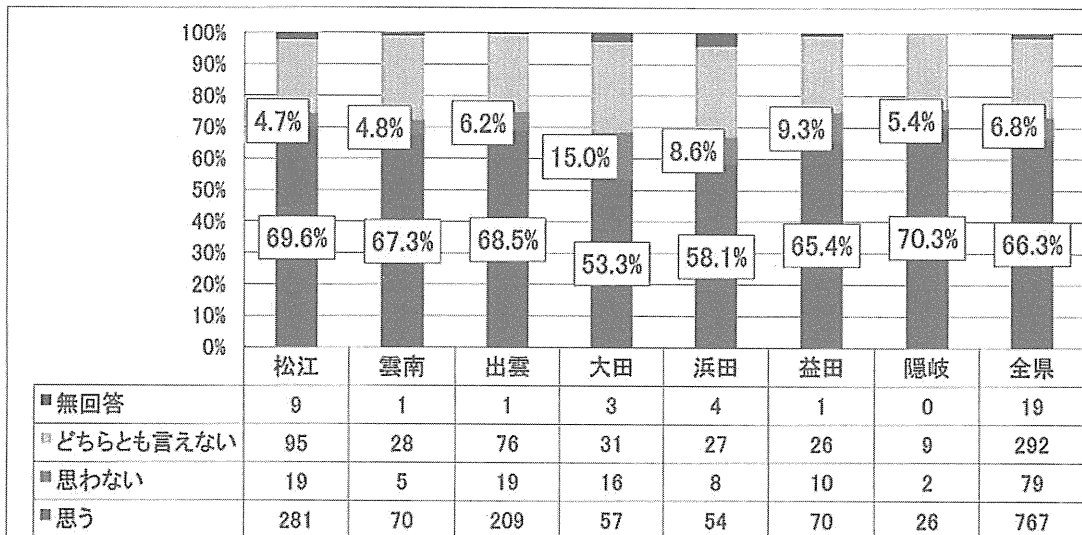
- ＃8000を知っていた保護者686名のうち、101名（14.7%）が利用経験あり。
- 浜田圏域では、＃8000を知っていた保護者47名のうち、利用者は1名（2%）であり、知っているも利用につながっていない。

問4 #8000を利用された方にお伺いします。利用された感想はいかがですか。



○約8割が「役に立った」と回答。

問5 #8000を御存知なかった方、#8000を利用されたことのない方にお伺いします。今後、お子さんの急な発熱などがあった時に、#8000を利用してみたいと思われますか。



○66.3%が#8000を「利用しようと思う」と回答。

○大田圏域では「利用しようと思わない」割合が高い(15%)。

**問6** この事業についてのご意見などございましたら、ご記入ください。

- ・困った時に相談できるのは大変心強い。利用してみたい。(125件)
- ・相談時間を延長してほしい。(22件)
- ・フリーダイヤル化してほしい。東京までの通話料が高い。(16件)
- ・もっと周知したら良い(19件)
- ・苦情(12件)
- ・電話で伝えられるか不安
- ・病院にかけた方が早い
- ・携帯電話からかけられるのか
- ・他の電話相談を使っている etc

**【応援メッセージ】**

- ・初めての子なので、病気の時、どの程度なら大丈夫とかの判断ができないので、相談のできる窓口があって、とても助かっています。今まで2回利用させていただきましたが、その節はありがとうございました。
- ・休日など病院が休みの時、これを利用することで不安がやすらいでよかったです。
- ・子どもの急な変化に焦って電話しましたが、冷静になりました。とても良い事業だと思います。
- ・いざという時のためにとてもよいと思います。つながらないという事がないようにお願いします。
- ・#8000があることが心強いです。
- ・いざとなったら、ここに頼ればいい！と思えるところがあるのは大きな安心です。利用したことはありませんが、続けて欲しい事業です。また、地域医療、特に小児科医師の多忙化が報じられる中で、緩和のためにも(地域医療存続のためにも)ぜひ続けてください。 etc

**【苦情について】**

**○回線がつながらない(6件)**

- ・なかなか出なかつたので、逆にイライラしてた。
- ・気になって電話したが、なかなか出なくてあきらめた。
- ・利用したいと思ったのですが、一度かけてみたら、ずっと「利用時間外」のアナウンスが流されます。何度も確認して、ちゃんと利用時間内でした。がっかりでした。
- ・つながらないことがとても多いので、もう少しつながりやすくしてほしい。
- ・何度かけても話中で、役に立たなかつた。
- ・使ってみたが混雑していてつながらなかつた。時間が日中も開設してほしいと思う。

**○対応に不満(6件)**

- ・後日、小児科医の話と違う事を言っていたので、まったく役に立たなかつた。それ以後、使用したいとは思わない。
- ・役には立ったけど、対応がつめたく感じる。ないよりは、このサービスはあつたほうが良い。
- ・先生によって、はっきりしたこと(病院にすぐ行きなさいなど)を言ってもらえず、結局どうしたらいいのかわからなかつたことがあつた。
- ・一度TELした時、回答者(男性)の方はぜんぜんアドバイスをくれなかつた。「救急病院に行ってください」だけだつた。
- ・休日している病院を教えてくれたが、あまりきちんと教えてもらえなかつた。
- ・名前や住所等も伝えないといけないのか？

**【今後の事業運営について】**

- 今後も継続的に広報を行い、認知度を高める必要がある。
- 利用にあつたの抵抗感を払拭する上で、具体的な対応事例についても広報していくのが有効と考えられる。

## 福岡県小児救急医療電話相談件数の状況

【別紙5】(福岡県)

夜間における小児患者を持つ保護者等の不安軽減のため、平成16年度から子どもの急な病気(発熱、下痢、嘔吐、けいれん等)、ケガに関する相談を、看護師、又は必要に応じて小児科医が助言を行う夜間の電話相談を実施。

### ① 年度別相談件数

(単位:件)

平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	累計
2,503	11,955	14,823	16,755	17,471	31,257	30,191	124,955

(平成16年10月30日開始)

(平成21年6月1日から翌7:00まで受付延長)

### ② 月別相談件数(平成22年度)

(単位:件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2,679	2,648	2,444	2,462	2,012	1,854	2,225	2,890	2,774	2,681	2,566	2,956	30,191

(1日あたり約80件)

### ③ 時間帯別の相談件数(平成22年度)

時間帯	件数	構成比
19:00~20:00	6,885	22.8%
20:00~21:00	5,777	19.1%
21:00~22:00	4,976	16.5%
22:00~23:00	3,905	12.9%
23:00~24:00	2,393	7.9%
24:00~1:00	1,693	5.6%
1:00~2:00	1,317	4.4%
2:00~3:00	960	3.2%
3:00~4:00	744	2.5%
4:00~5:00	531	1.8%
5:00~6:00	465	1.5%
6:00~7:00	545	1.8%
合計	30,191	100.0%

### ④ 内容別の相談件数(平成22年度)

相談内容	件数(述べ数)	構成比
発熱	12,237	34.1%
嘔吐	3,822	10.6%
下痢	1,860	5.2%
その他	18,000	50.1%
合計	35,919	100.0%

(1件の相談で、複数の相談内容を含む場合がある。)

### ⑤ 対応内容(平成22年度)

対応内容	件数	構成比
受診を勧めた	8,080	26.7%
救急車要請	43	0.1%
指導・助言・その他	22,090	73.1%
合計	30,213	100.0%

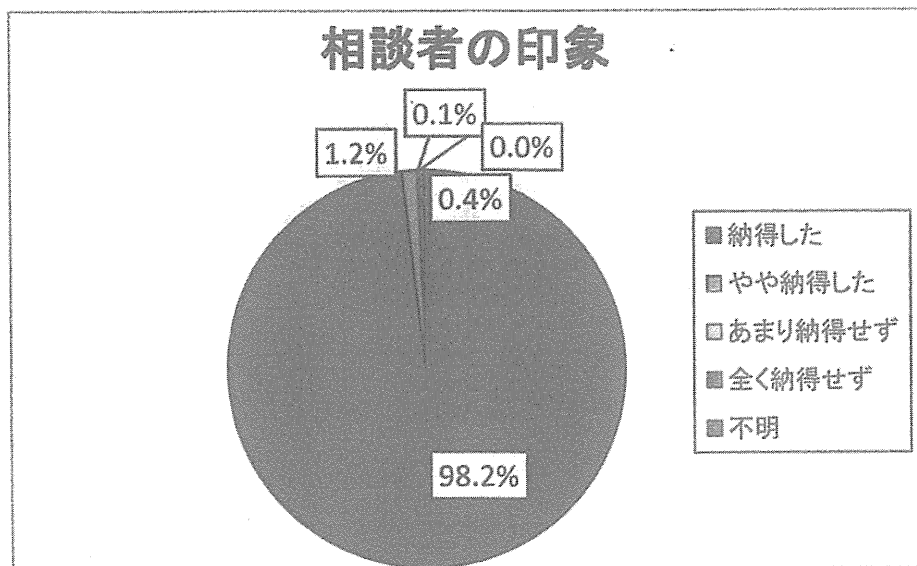
### ⑥ 相談者の納得度(平成22年度)

納得度	件数	構成比
納得	29,809	98.7%
納得せず	10	0.0%
不明	372	1.2%
合計	30,191	100.0%



## 相談者の印象

相談者の印象	件数	割合
納得した	19747	98.2%
やや納得した	251	1.2%
あまり納得せず	27	0.1%
全く納得せず	7	0.0%
不明	86	0.4%
全体	20118	—



資料 2 科研保科班 #8000 広島会議 第 1 回議事録

平成23年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
「小児救急電話相談の実施体制整備および相談対応の充実に関する研究」班  
（H23-医療-一般-001）

## 科研保科班#8000 広島会議 第1回議事録

記録者 江原 朗

日時：平成23年12月13日 18時50分～21時30分

場所：鯉城会館 5F会議室

広島市中区大手町1-5-3

電話：(082) 245-2322

記録：広島国際大学 江原 朗

出席者：

- ・ 広島県：佐々木昌弘健康福祉局長,  
宇津宮仁志医療政策課長,  
山根多美子こども家庭課長,  
齋藤厚子健康増進担当監,
- ・ 広島大学：烏帽子田 彰教授
- ・ 広島国際大学：江原 朗教授
- ・ 保科班：桑原正彦
- ・ 杉原雄三
- ・ (株)NTTデータ：石黒満久課長

### 1. #8000の県事業について

(佐々木局長)

広島県から始まって10年。最後に沖縄県が開始し、全国で電話相談ができた。  
本県は、健康対策課、こども家庭課、医療政策課の3課で実施。

拡充方法の問題点：

- ・ 翌朝まで電話相談時間の延長
- ・ 回線数の増加
- ・ 実施方法：直営および民間サービスの導入（平日19～22時は県看護協会、以後は民間業者。休日19時～翌8時は民間業者）

## #8000の結果の検証

- ・小児科医の負担軽減は
- ・その後のフォローは

### <協議>

#### (桑原)

- ・県の予算増加はできるのか：佐々木局長からは可能だろうと。
- ・ネット上の「こどもの救急」の効果がどうかは衛藤班の研究事業であった。この利用者は多いと思われる。
- ・広島県において小児電話相談の相談員ボランティア小児科医が減って、土日祝日の運営が難しくなって、民間委託への方向が出てきた、現在、平成18年時の60名から平成23年時の28名にまで減り、さらに減る恐れ。そこで、県看護協会や民間に頼む形になった。
- ・看護師が平日は受けているが、うち、1%は当番の小児科医に転送している。
- ・今回は、小児科医主体から看護師、民間への切り替えと大きな転換点にある。その場合は、小児科医は後ろで待機する形になる。

#### (江原)

- ・#8000による小児科医の負担軽減は感染症の流行等で不明となるのでは。
- ・時間帯別に、話中や重篤度の検討をしては。

#### (烏帽子田)

- ・電話をかけた人は追跡が難しいので、電話した時点で確認する以外はないのでは。

#### (杉原)

- ・やはり、看護師さんを電話相談に生かす方向はいいと思われる。
- ・1件あたりの電話時間は5分程度。

#### (宇都宮)

- ・予算は、国、県、市町村で3分の1ずつ負担している。

#### (石黒)

- ・電話相談に満足度を入れられるようにしてはどうか。
- ・話し中の件数は、1時間あたり41件。

## 2. #8000の拡充について（研究班）

（桑原）

- ・ #8000全国衛生部長会調査の解析をNTT中国に依頼した。
- ・ この聞き取り調査票とその解析結果を今後に活かしたい。
- ・ 住所を調べることは問題ではないか：佐々木局長からは市町村単位では問題なさそう。

（石黒）

- ・ こどもの生年月日と住所（市町村単位）を入れて解析できるようにした。
- ・ 調査票のフォーマットを全国統一として解析したい。

（杉原）

- ・ 虐待もからむのではないか。

資料3 科研保科班#8000 広島会議 第2回議事録

平成23年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
「小児救急電話相談の実施体制整備および相談対応の充実にに関する研究」班  
（H23-医療-一般-001）

## 科研保科班#8000 広島会議 第2回議事録

記録者 桑原正彦

日時：平成24年2月9日（木） 19時00分～20時00分

場所：鯉城会館 ガーネット

広島市中区大手町1-5-3

電話：(082) 245-2322

出席者：広島県健康福祉局	佐々木昌弘局長
広島県医療政策課	宇津宮仁志課長
広島県こども家庭課	山根多美子課長
広島県健康対策課	岸本益実課長
広島大学 公衆衛生学	烏帽子田 彰教授
広島国際大学	江原 朗教授
(株)NTTデータ	石黒満久課長
(株)NTTデータ中国	真鍋誠悟課長
(株)NTTデータ中国	小代貴美子主任
広島県医療政策課	渡辺慎一主幹
保科班研究分担者	桑原正彦（日本小児科医会 副会長）
同 協力者	杉原 雄三（広島県小児科医会 理事）

議題：1. 全国衛生部長会へのアンケート解析について

平成24年1月11日から1月18日に実施した、「#8000に関する各都道府県の実態と全国情報センター構想の是非を問うアンケート調査」について、集計・解析の委託先の（株）NTTデータ中国からの説明を聞き、委員の意見を述べて、最終報告書にまとめる準備を行った。

2. #8000ひろしまの改善策について

平成14年、科研鴨下班事業で、全国初の試みで始めた「小児救急電話相談事業・広島」は、諸般の事情から体質改善を余儀なくされている。このことについて、委員の意見聴取を行った。

3. 相談員の聞き取り用、全国統一ソフトの改良について

深夜帯の実施は、体力の弱い自治体での、単独での#8000の運営には、人的、財政的に、限界がある。そこで、複数県以上の自治体が共同で、運営する体制

を模索している。その場合、相談員の聞き取り票は、主体県のニーズに合ったデータが取れるソフトでなければならない。その為の、自由度のあるソフトの改良を行うこととなり、その内容について協議した。たとえば、民間電話会社に委託する場合は、遠隔地から、利用者の住所の近辺で、その時刻に開設している医療機関の検索もできるソフトでなければならない。平成22年度のソフトの改良と実用化について、協議した。

#### 4. その他

今後の、「相談支援情報センター」のあり方について、および「管理運営委員会」のあり方について、意見交換をした。

20：40 終了



資料4 東日本大震災被災地3県及び近県の#8000連携の可能性についての  
研究会 議事録

平成23年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
「小児救急電話相談の実施体制整備および相談対応の充実に関する研究」班  
(H23-医療-一般-001)

## 東日本大震災被災地3県及び 近県の#8000連携の可能性についての研究会 議事録

記録者 桑原正彦

日時：平成23年7月18日（祝・月） 午前11時～午後1時

場所：江陽グランドホテル

仙台市青葉区本町2-3-1

電話：(022) 267-5111

出席者：岩手県小児科医会 #8000担当	三浦 義孝（事務局報告）	資料参加
福島県小児科医会 #8000担当	伊藤 俊晴（事務局報告）	資料参加
山形県小児科医会 #8000担当	横内 新吉	
山形市医師会 #8000担当	大内 清則	
宮城県小児科医会 会長	奥村 秀定	
宮城県小児科医会 #8000担当	堺 武男	
同	井上 重夫	
同	虻川 大樹	
同	師 保之	
保科班研究分担者	桑原 正彦（日本小児科医会 副会長）	
同	渡部 誠一（日本小児科医会 小児救急委員会委員長）	

### 1. 自己紹介

### 2. 報告

- ・渡部：#8000の現状を説明し、深夜帯の充実のために協力を依頼した。
- ・桑原：特に、「被災地3県の#8000は、24時間いつでも、どこからでも、話し中なしで利用できる環境を作ることが必要であり、「再生医療基金」や、「災害特例」を利用して、ぜひ実現をしていただきたい。
- ・奥村：今回の東日本大震災は甚大な被害を受けたが、各県の皆様方の人的、物的支援に感謝をしている。

今回のご提案は、被災地の子どもたちと、その家族、保護者にとって、非常に良い事

業であり、岩手県、福島県とも共同歩調がとれるように、まず、関係機関で話し合っ  
て、3県の行政にお願いをする方向としたい。その節は、応援をしていただきたい。

・横山：とてもよい話なので、山形県も応援したい。

#### 配布資料

1. 平成21-22年度 厚労科研保科班「総合報告書」

2. 電話相談テキスト

(第3回全体会資料)

#### 名称

宮城県こども夜間安心コール事業の深夜帯への拡大

#### 目的

1. 震災により疲弊した県内小児医療施設の夜間救急体制の支援
2. 県内の深夜帯の小児救急のニーズの頻度を調査することにより、今後の体制の参考とする。
3. 同時帯のニーズの内容を調査することにより、両親の不安度を分析する。

#### 実施内容

1. 宮城県医師会がダイヤル・サービス株式会社（東京都千代田区3-6-2. 03-6238-7101：国内12県において実績を持っている）に委託し、宮城県が補助金を出す。
2. 実施期間は平成24年1月1日の23時より開始、以下毎日23時より翌日の8時までの間のコールを平成26年3月31日まで行う。
3. コールへの回答の担当はダイヤル・サービス株式会社所属の小児科医7名が交替で行う。

#### 宮城県からの補助金の予算

1. 平成24年1月1日より3月31日まで：375万円
2. 平成24年4月1日より平成25年3月31日まで：1500万円
3. 平成25年4月1日より平成26年3月31日まで：1500万円

#### コールの内容の検討

現在の準夜帯（19：00-23：00）の業務と同様に、宮城県小児科医会がコールの内容と回答について後方視的に検討する。

#### 発足に際して生ずる手続きその他

23時の時点で電話回線の切り替え等に関する工事が若干発生するが、その他大きな工事等は発生しないものと思われる。

資料5 平成23年度 第1回全体会議 議事録